

第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」実施要綱

1 目的

全国障害者スポーツ大会は、障害者が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とした障害者スポーツの祭典である。

「人も地域も真に輝く 魅力あふれる元気な“とちぎ”」で開催される第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」は、「思いやりの心を広げよう!」「感動を未来へつなげよう!」「とちぎの元気を届けよう!」「スポーツの力を実感しよう!」の4つの基本方針の下、東京パラリンピックのレガシーを受け継ぎ、スポーツを通じて障害に対する理解を深め、障害者の社会参加に寄与し、障害のある人もない人も共に生きる社会を目指すとともに、とちぎの元気を全国へ発信する大会とする。

また、「いちご」の生産量が半世紀にわたって日本一の栃木県。「いちご王国」で行われる大会に参加するすべての人々が、県民の心のこもった様々なおもてなしに出会い、交流を深めることで新たな夢や感動が生まれる大会を目指す。

2 名称

第22回全国障害者スポーツ大会
(愛称「いちご一会とちぎ大会」)

3 大会スローガン

「夢を感動へ。感動を未来へ。」

4 主催

公益財団法人日本パラスポーツ協会、文部科学省

栃木県、宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、小山市、真岡市、大田原市、
那須塩原市、那須烏山市

一般財団法人栃木県身体障害者福祉会連合会、一般社団法人栃木県視覚障害者福祉協会、
一般社団法人栃木県聴覚障害者協会、一般社団法人栃木県手をつなぐ育成会、

一般財団法人栃木県精神衛生協会、社会福祉法人栃木県社会福祉協議会、

特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会、栃木県障がい者スポーツ指導者協議会、

栃木県特別支援学校長会、栃木県中学校教育研究会特別支援教育部会、

公益財団法人栃木県スポーツ協会

5 競技運営主管団体

一般財団法人栃木陸上競技協会、栃木県水泳連盟、栃木県アーチェリー協会、

栃木県卓球連盟、栃木県障害者フライングディスク協会、栃木県ボウリング連盟、
栃木県ポッチャ協会、一般社団法人栃木県バスケットボール協会、
栃木県ソフトボール協会、栃木県バレーボール協会、公益社団法人栃木県サッカー協会

6 後援 〈以下は、後援依頼予定団体の名称〉

厚生労働省、公益財団法人日本スポーツ協会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、
社会福祉法人日本身体障害者団体連合会、一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会、
公益財団法人日本知的障害者福祉協会、公益社団法人日本精神保健福祉連盟、
公益財団法人 JKA、公益社団法人日本医師会

7 特別協賛

大同生命保険株式会社

(令和4(2022)年3月31日現在)

8 協賛

(1) 国体・大会パートナー (12社(団体))

北関東総合警備保障株式会社、株式会社TKC、株式会社足利銀行、フタバ食品株式会社、株式会社栃木銀行、株式会社下野新聞社、藤井産業株式会社、一般社団法人栃木県建設業協会、株式会社ヨークベニマル、関東自動車株式会社、環境整備株式会社、株式会社ナカニシ

(令和4(2022)年3月31日現在)

(2) オフィシャルスポンサー (14社(団体))

トヨタウッドユーホーム株式会社、株式会社カンセキ、東日本電信電話株式会社栃木支店、光陽エンジニアリング株式会社、大和証券株式会社、とちぎ建設技術センター、菊地歯車株式会社、栃木県農業協同組合中央会、日本郵便株式会社、滝沢ハム株式会社、東京ガス株式会社、協栄産業株式会社、花王株式会社栃木工場、株式会社カワチ薬品

(令和4(2022)年3月31日現在)

(3) オフィシャルサポーター (66社(団体))

株式会社富貴沢建設コンサルタンツ、栃木セキスイハイム株式会社、株式会社景観プランニング、株式会社ダスキン北関東地域本部、栃木県信用保証協会、足利小山信用金庫、栃木信用金庫、佐野信用金庫、鹿沼相互信用金庫、大田原信用金庫、烏山信用金庫、一般社団法人栃木県トラック協会、レオン自動機株式会社、栃木県北建設業協同組合、株式会社田中工業、中村土建株式会社、栃木県スポーツ用品販売協同組合、富士通株式会社(小山工場・栃木支店・那須工場3社合同)、有限会社ル・フェステ、一般社団法人

栃木県設備業協会、真岡信用組合、那須信用組合、栃木県森林組合連合会、株式会社ヨコブリシ、株式会社いづみや、丸彦製菓株式会社、宇都宮記念病院、栃木トヨタ自動車株式会社、株式会社ビッグ・ビー、パスキン工業株式会社、桜岡建設株式会社、宇都宮電子株式会社、株式会社谷黒組、株式会社うつのみや観光、磯部建設株式会社、株式会社ランドグラン、アキレス株式会社、東武建設株式会社、株式会社菊地組、晋豊建設株式会社、下都賀建設業協同組合、岩村建設株式会社、株式会社野澤實業、株式会社ムロコーポレーション、栃舗建設工業株式会社、株式会社丸あ組、日本信号株式会社、三信電工株式会社、株式会社小牧工業、グラクソ・スミスクライン株式会社、宇都宮ヤクルト販売株式会社、岩原産業株式会社、仲田総業株式会社、ジェットブラックフラワーズ合同会社、株式会社シー・アイ・エス、一般社団法人栃木県造園建設業協会、栃木ミサワホーム株式会社、株式会社コジマ、芙蓉地質株式会社、渡辺建設株式会社、邦和理工株式会社、とちぎコープ生活協同組合、仙波糖化工業株式会社、株式会社みんな、株式会社イシワタ、東邦建株式会社

(令和4(2022)年3月31日現在)

(4) オフィシャルサプライヤー (44社 (団体))

コクヨ北関東販売株式会社、栃木日産自動車販売株式会社、日産プリンス栃木販売株式会社、栃木トヨタ自動車株式会社、栃木トヨペット株式会社、ネットトヨタ栃木株式会社、トヨタカローラ栃木株式会社、栃木ホンダ販売株式会社、株式会社ホンダカーズ栃木、株式会社ホンダカーズ南栃木、株式会社ホンダベルノ栃木中、株式会社アクティブホンダ、株式会社ホンダプリモ中央、栃木スバル自動車株式会社、株式会社北関東マツダ栃木事業部、株式会社スズキ自販栃木、栃木ダイハツ販売株式会社、株式会社トヨタレンタリース栃木、オリックスレンタカー栃木株式会社、株式会社イノマタ、日光霧降大笹牧場株式会社、株式会社エフエム真岡、東武鉄道株式会社、株式会社東武百貨店、公益財団法人栃木県保健衛生事業団、ボルボ・カー宇都宮、ニッポンレンタカー北関東株式会社、ウィンワークス株式会社、株式会社ファーマーズ・フォレスト、株式会社虎屋ビル、五百部商事有限会社、白石物産株式会社、株式会社新朝プレス、株式会社オーシマ小野商事、ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社、システム興産株式会社、株式会社ユーユーワールド、第一酒造株式会社、有限会社高林堂、有限会社風間総合サービス、日本製紙クレシア株式会社、株式会社とちぎテレビ、全国マツダ労働組合連合会、株式会社NTTドコモ栃木支店

(令和4(2022)年3月31日現在)

(5) 大会協力企業 (19社 (団体))

栃木いすゞ自動車株式会社、栃木日野自動車株式会社、宇都宮中央ライオンズクラブ、株式会社ルイ高、株式会社栃木銀行、吉岡食品工業株式会社、株式会社カンセキ、カゴメ株式会社那須工場、三菱商事ライフサイエンス株式会社、笠原産業株式会社、社会福祉法人とちぎ健康福祉協会、株式会社栃木県民球団、株式会社ニッカネ、株式会社カナ

メ、一般社団法人あおぞら福祉カレッジ、有限会社菊池建材工業、株式会社日新、公益財団法人とちぎ未来づくり財団、公益財団法人とちぎ男女共同参画財団

(令和4(2022)年3月31日現在)

9 協力企業・団体(39社(団体))

宇都宮大学、足利大学、白鷗大学、国際医療福祉大学、文星芸術大学、自治医科大学、帝京大学、佐野日本大学短期大学、國學院大学栃木短期大学、
作新学院大学女子短期大学部、宇都宮文星短期大学、宇都宮ビジネス電子専門学校、
大原簿記情報ビジネス医療専門学校宇都宮校、大原スポーツ公務員専門学校宇都宮校、
栃木県立衛生福祉大学校、栃木県農業大学校、宇都宮アート&スポーツ専門学校、
国際看護介護保育専門学校、済生会宇都宮病院看護専門学校、
栃木介護福祉士専門学校、中央福祉医療専門学校、
国際医療福祉大学塩谷看護専門学校、
独立行政法人国立病院機構栃木医療センター附属看護学校、報徳看護専門学校、
特定非営利活動法人栃木県中途失聴・難聴者協会、栃木県手話通訳士協会、
特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会栃木支部、栃木県手話通訳問題研究会、
一般社団法人栃木県理学療法士会、一般社団法人栃木県作業療法士会、
公益社団法人栃木県柔道整復師会、一般社団法人栃木県鍼灸マッサージ師会、
一般社団法人栃木県鍼灸師会、一般社団法人栃木県医師会、
一般社団法人栃木県歯科医師会、公益社団法人栃木県看護協会、
株式会社オーエックスエンジニアリング、協和義肢工業株式会社、日進医療器株式会社

(令和4(2022)年3月31日現在)

10 大会期日

令和4(2022)年10月29日(土)~31日(月)

11 実施競技、開催期日及び会場

実施競技	開催期日	会場名
開会式	10月29日	カンセキスタジアムとちぎ (栃木県総合運動公園陸上競技場)
閉会式	10月31日	カンセキスタジアムとちぎ (栃木県総合運動公園陸上競技場)
個人競技	陸上競技(身・知)	10月29日～31日 カンセキスタジアムとちぎ (栃木県総合運動公園陸上競技場)
	水泳(身・知)	10月29日～31日 日環アリーナ栃木屋内水泳場 (栃木県総合運動公園屋内水泳場)
	アーチェリー(身)	10月30日 那須烏山市緑地運動公園多目的競技場
	卓球(身・知・精) 【サウンドテーブル テニス(身)を含む】	10月29日～31日 TKCいちごアリーナ (鹿沼総合体育館)
	フライングディスク(身・知)	10月29日～31日 栃木市総合運動公園陸上競技場
	ボッチャ(身)	10月29日、30日 三和住宅にしなすのスポーツプラザ (にしなすの運動公園) 体育館
	ボウリング(知)	10月29日、30日 足利スターレーン
団体競技	バスケットボール(知)	10月29日、30日 日環アリーナ栃木メインアリーナ (栃木県総合運動公園メインアリーナ)
	車いすバスケットボール(身)	10月29日、30日 栃木県立県南体育館
	ソフトボール(知)	10月29日、30日 美原公園野球場・第2球場
	グラウンドソフトボール(身)	10月29日、30日 宇都宮市屋板運動場運動広場
	バレーボール(身)	10月29日、30日 宇都宮市清原体育館
	バレーボール(知)	10月29日、30日 宇都宮市体育館
	バレーボール(精)	10月29日、30日 佐野市アリーナたぬま
	サッカー(知)	10月29日～31日 真岡市総合運動公園陸上競技場・運動広場1
	フットソフトボール(知)	10月29日、30日 ジェットブラックフラワーズスタジアム (足利市総合運動場硬式野球場) エコアールグリーン球場 (足利市総合運動場軟式野球場)

(注) 身：身体障害者が出場できる競技
知：知的障害者が出場できる競技
精：精神障害者が出場できる競技

12 参加者及び出場資格

(1) 大会の参加者は、都道府県・指定都市選手団、大会役員及び競技役員とする。

(2) 出場選手は、次の全ての条件を満たす者とする。

① 年齢は令和4(2022)年4月1日現在で13歳以上とする。

② 資格要件は次のとおりとする。

ア) 身体障害者は、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条の規定により、身体障害者手帳の交付を受けた者。

イ) 知的障害者は、厚生事務次官通知（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）による療育手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者。

ウ) 精神障害者は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある者。

③ 申込み時に参加する都道府県・指定都市内に現住所（住民票のある地）を有する者。ただし、学校に通学している者及び施設に入所・通所している者は、その学校及び施設の所在地の都道府県・指定都市でも参加できるものとする。

(3) 団体競技に出場するチームは、次のとおりとする。

① 栃木県の代表チーム

② 公益財団法人日本パラスポーツ協会がブロック予選実施団体（一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟、社会福祉法人日本視覚障害者団体連合スポーツ協議会、一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会、一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会及び公益社団法人日本精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会）と協議の上実施するブロック予選会により決定した都道府県又は指定都市の代表チーム。

③ 指定都市及びその指定都市のある道府県において、単独で代表チームが編成出来ない場合に限り、道府県と指定都市の合同チームとして出場を認める。ただし、その場合はブロック予選会から合同チームとして出場しなければならない。

④ ブロック予選会の実施が困難な競技については、公益財団法人日本パラスポーツ協会が選考したチーム。

13 選手団予定人員

(1) 選手 約3,640名

(2) 役員 約2,000名

14 競技規則

適用する競技規則は、令和4(2022)年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則(公益財団法人日本パラスポーツ協会制定。以下「大会競技規則」という。)並びに別に定める競技実施要項及び競技別実施要領によるものとする。

15 競技・種目及び障害・年齢区分

- (1) 競技・種目及び障害区分は、大会競技規則第2条2<別表1>「全国障害者スポーツ大会競技・種目」のとおりとする。
- (2) 大会競技規則第2条3に定める年齢区分の基準日は、令和4(2022)年4月1日とする。

16 参加申込

- (1) 参加申込みは、大会競技規則第2条2<別表1>に示された競技の中から1競技を選ぶものとし、実施種目が複数ある場合については、次のとおり選択して申し込むことができる。
 - ① 陸上競技及び水泳は、リレー種目を除き第3希望までの種目を選択する。
なお、リレー種目はこれとは別に選択する。
 - ② フライングディスクは、アキュラシーのディスリート5又はディスリート7のいずれか及びディスタンスの計2種目までを選択することができる。
 - ③ アーチェリーは、リカーブ部門またはコンパウンド部門のいずれかの1種目を選択する。
- (2) 開催地主催者は、申し込まれた種目中から出場種目を決定し、派遣者に通知する。

17 出場制限

(1) 個人競技

個人競技に出場する選手は、1競技のみに出場できるものとし、実施種目が複数ある競技については、出場種目は2種目以内(リレー種目に出場する場合は3種目以内)とする。

ただし、開催地主催者が地理的条件等何らかの理由により、出場競技・種目に制限を加える等の必要がある場合には、主催者で協議の上、決定することができる。

(2) 団体競技

団体競技に出場する選手は、他の団体競技及び個人競技には出場できないものとする。

18 選手選考への配慮

都道府県・指定都市における出場選手の選考に当たっては、地域の障害者スポーツの振興を図る観点から、これまでの全国身体障害者スポーツ大会、全国知的障害者スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会出場未経験者の出場に配慮する。

19 全国代表者会議及び監督会議

(1) 期日

令和4(2022)年10月28日(金)

※ただし、アーチェリー競技については10月29日(土)とする。

(2) 時間及び会場

別に定める。

20 選手団の派遣及び参加費用

(1) 選手団は、都道府県・指定都市(以下「派遣者」という。)が派遣する。

(2) 派遣者は、開催地主催者に対し、所定の手続きをもって選手団及び出場選手の競技・種目の申込みを行う。

(3) 選手団の派遣に要する費用は、派遣者が負担する。

21 健康・安全管理

選手団の健康・安全面については、派遣者において十分配慮するものとし、主催者においては、応急の処置のみを行う。

22 宿泊

選手団の宿泊は、開催地主催者において確保し、宿泊料金等は別に定める。

23 オープン競技

次の競技をオープン競技として、次のとおり実施する。なお、実施に関する必要な事項は別に定める。

実施競技	開催期日	会場名
卓球バレー	10月2日	わかくさアリーナ (とちぎ福祉プラザ障害者スポーツセンター)
車椅子ダンス	10月30日	関東ホーチキにしかた体育館 (栃木市西方総合文化体育館)
スポーツウエルネス吹矢	10月29日	さくら市氏家体育館

24 個人情報及び肖像権に関わる取扱い

- (1) 主催者は個人情報保護に関する法令を遵守し、参加申込で得た情報を第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」に係わる業務のために利用し、目的以外に利用しない。
- (2) 参加者は、参加申込書の提出をもって、大会中に撮影された写真及び映像の公開に関する取扱いについて承諾をしたものとする。
- (3) その他の取扱いについては、国民体育大会における個人情報及び肖像権に関わる取扱いに準じる。

25 その他

この要綱に定めるもののほか、大会の実施に関して必要な事項は別に定める。

附則

この要綱は令和4(2022)年1月12日から施行する。

附則

この要綱は令和4(2022)年4月1日から施行する。

<別表1>全国障害者スポーツ大会競技・種目

1. 陸上競技

◎男女別・年齢区分別 △男女混合・年齢区分なし ▲男女別・年齢区分なし

		区分番号	障害区分	競走						跳躍			投てき						
				50m	100m	200m	400m	800m	1500m	スラローム	※1 4×100mリレー	走高跳	立幅跳	走幅跳	砲丸投	ソフトボール投	ジャベリックスロー	ビーントック投	
肢体不自由	1	上肢	1	手部切断 片前腕切断または、片上肢不完全 片上腕切断または、片上肢完全	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎		
			2	両前腕切断または、片前腕および片上腕切断 両上肢不完全	◎	◎				◎		▲	◎	◎					
			3	両上腕切断または、両上肢完全	◎	◎						▲	◎	◎					
		下肢	4	片下腿切断または、片下肢不完全	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			5	片大腿切断または、片下肢完全	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎	◎	
			6	両下腿切断	◎	◎							◎		◎	◎	◎	◎	
			7	片下腿および片大腿切断 両下肢不完全	◎								◎		◎	◎	◎	◎	
			8	両大腿切断または、両下肢完全												◎	◎	◎	
	2	車いす 脳原性麻痺、 以外で	9	体幹 ※3	◎	◎							◎	◎	◎	◎	◎		
			10	第6頸髄まで残存	◎	◎					◎							◎	
			11	第7頸髄まで残存		◎	◎		◎	◎	◎							◎	
			12	第8頸髄まで残存		◎	◎		◎	◎	◎					◎	◎	◎	
			13	下肢麻痺で座位バランスなし		◎	◎		◎	◎	◎					◎	◎	◎	
			14	下肢麻痺で座位バランスあり		◎	◎		◎	◎	◎					◎	◎	◎	
	3	(脳性麻痺、 脳外傷等)	15	その他の車いす		◎	◎		◎	◎					◎	◎	◎		
			16	四肢麻痺で車いす使用	◎						◎							◎	
			17	けって移動	◎						◎							◎	
			18	片上下肢で車いす使用	◎						◎						◎	◎	
			19	上肢で車いす使用	◎	◎	◎		◎	◎	◎					◎	◎	◎	
			20	その他走不能												◎	◎	◎	
	4		21	上肢に不随意運動を伴う走可能	◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎		
			22	その他走可能	◎	◎	◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	視覚障害 ※5		23	電動車いす常用							◎							◎	
24			視力0から0.01まで ※6	◎	◎	◎		◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎		
聴覚・平衡機能障害、 音声・言語・そ しゃく機能障害		25	その他の視覚障害	◎	◎	◎		◎	◎			▲	◎	◎	◎	◎	◎		
		26	聴覚障害	◎	◎	◎		◎	◎			▲	◎	◎	◎	◎	◎		
知的障害		27	知的障害	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	▲	◎	◎		◎	◎			
内部障害		28	ぼうこう又は直腸機能障害	◎					◎				◎	◎		◎	◎		

※1 4×100mリレーは男女混合とする。
 ※2 50m競走で使用する車いすは日常生活用とする。
 ※3 体幹とは頸部・胸部・腹部及び腰部(脊柱)のみに変形がある者(脊椎カリエス等による体幹の障害が該当する)。ただし、四肢の機能障害を伴う場合は体幹の機能障害があってもこの区分には該当しない。
 ※4 複数の障害区分にわたり1つの◎がついている場合は、一つの区分として競技をおこない、順位を決定する。
 ※5 視力は「矯正後の良い方の視力」で判定する。
 ※6 障害区分24は光を通さないアイマスクまたはアイシェードを装着する。
 【注】競走競技は50mと100m、跳躍競技は立幅跳と走幅跳、投てき競技は障害区分8を除き、ソフトボール投とジャベリックスローの両方に申し込むことはできない。

2. 水泳

◎男女別・年齢区分別 ○男女別・1部 ●男女別・2部 △男女混合・年齢区分なし

			自由形		背泳ぎ		平泳ぎ		バタフライ		※1 フリー リレー 4×50 m	※1 メド レー リレー 4×50 m	
区分番号			2 5 m	5 0 m	2 5 m	5 0 m	2 5 m	5 0 m	2 5 m	5 0 m			
肢体不自由	1	上肢	1	手部切断	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
			2	片前腕切断または、片上肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
			3	片上腕切断または、片上肢完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
			4	両前腕切断または、両上肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
			5	両上腕切断または、両上肢完全 片前腕および片上腕切断	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
	1	下肢	6	片下腿切断または、片下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
			7	片大腿切断または、片下肢完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
			8	両下腿切断または、両下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	●	○	
			9	両大腿切断または、両下肢完全 片下腿および片大腿切断	◎	◎	●	○	●	○	◎		
	1	上下肢	10	片上肢切断および片下肢切断 片上肢不完全および片下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	◎		
			11	多肢切断または、片上肢完全および片下肢完全 両上肢不完全および両下肢不完全	◎	◎	●	○	●	○	◎		
2	以脳 す外 常用 車 麻 痺	12	体幹	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		13	第7頸髄まで残存	◎	◎	◎		◎					
		14	第8頸髄まで残存	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		15	下肢麻痺で座位バランスなし	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		16	下肢麻痺で座位バランスあり	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
3	(脳 性 麻 痺、 脳 外 傷 等)	17	四肢麻痺(車いす常用)または、 上肢に著しい不随意運動を伴う走不能	◎	◎	◎		◎					
		18	両下肢麻痺または、 上肢に軽度の不随意運動を伴う走不能	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		19	片側障害で片上肢機能全廃	◎	◎	●	○	●	○	◎			
		20	その他の片側障害で走不能	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		21	その他走可能	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
4	22	浮具使用	◎	◎	◎		◎						
視覚障害 ※2		23	視力0から0.01まで ※3	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
		24	その他の視覚障害	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
聴覚・平衡機能障 害、音声・言語・そ しゃく機能障害		25	聴覚障害	◎	◎	●	○	●	○	●	○		
知的障害		26	知的障害	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△

※1 フリーリレー、メドレーリレーは男女混合とする。

※2 視力は「矯正後の良い方の視力」で判定する。

※3 障害区分23は光を通さないゴーグルを装着する。

3. アーチェリー

●男女別

	区分番号	障害区分	リカーブ		コンパウンド		
			50m・30m	30m・30m	50m・30m	30m・30m	
肢体不自由	1	第8頸髄まで残存	●	●	●	●	
	2	その他の車いす	●	●			
	3 4 5	3	上肢障害	●	●		
		4	下肢障害（椅子、車いす使用を含む）	●	●		
		5	体幹	●	●		
	6	脳原性麻痺（脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等）	●	●	●	●	
7	聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害	●	●				
8	内部障害	ぼうこう又は直腸機能障害	●	●			

※ 「第8頸髄まで残存」には、「第6頸髄まで残存」および「第7頸髄まで残存」は出場できるものとする。

4. 卓球

◎男女別、年齢区分別 ●男女別

			区分番号	障害区分	卓球	STT
肢体不自由	1	上肢障害	1	片上肢障害	◎	
			2	両上肢障害	◎	
		下肢障害	3	片下腿切断または、片下肢不完全	◎	
			4	片大腿切断または、両下腿切断 片下肢完全または、両下肢不完全	◎	
			5	片下腿および片大腿切断 両大腿切断または、両下肢完全	◎	
		6	体幹	◎		
	2	脳原性麻痺以外で車いす常用、使用	7	第8頸髄まで残存 ※1	◎	
			8	座位バランスなし	◎	
			9	その他の車いす	◎	
	3	脳原性麻痺（脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等）	10	車いす使用	◎	
			11	杖または、松葉杖使用	◎	
			12	上肢に不随意運動あり	◎	
			13	上肢に不随意運動なし	◎	
			14	片側障害	◎	
視覚障害 ※2			15	アイマスクまたは、アイシェードあり※3		◎
			16	アイマスクまたは、アイシェードなし	◎	
聴覚・平衡機能障害、音声・言語・そしゃく機能障害			17	聴覚障害	◎	
知的障害			18	知的障害	◎	
精神障害			19	精神障害	●	

※1 「第8頸髄まで残存」には、「第6頸髄まで残存」および「第7頸髄まで残存」は出場できるものとする。

※2 視力・視野の程度に関わらず、アイマスクまたは、アイシェードの有無で出場競技を分ける。

※3 障害区分15は、各自で用意した光を通さないアイマスクまたはアイシェードを装着する。

5. フライングディスク

◇区分なし ●男女別

	アキュラシー		ディスタンス	
	ディスリート5	ディスリート7	座位	立位
肢体不自由	◇	◇	●	●
視覚障害				
聴覚障害				
知的障害				
内部障害（ぼうこう又は直腸機能障害）				

6. ボッチャ

△男女混合・年齢区分なし

		区分番号	障害区分	競技スタイル		
				立位	座位	
肢 体 不 自 由	1	切断・機能障害	1	多肢切断または、両下肢完全で立位	△	
	2	脳原性麻痺以外で車いす常用、使用	2	第6頸髄まで残存		△
			3	第7頸髄まで残存		△
			4	第8頸髄まで残存		△
			5	多肢切断		△
	3	脳原性麻痺（脳性麻痺、脳血管疾患、脳外傷等）	6	四肢麻痺で車いす常用または、使用		△
			7	けって移動		△
			8	片上下肢で車いす常用または、使用		△
			9	その他走不能	△	
	4		10	電動車いす常用		△

※座位とは、車いす及び椅子に座った競技スタイルを言う。

※座位で競技する選手（区分2～8および10）の選手で、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な者及びランプ使用者について、選手1名につき1名の競技アシスタントを認める。

※立位で競技する選手については、安全上の配慮から、投球時以外はボックス内に椅子を準備し、座位にて待機してもよい。

7. ボウリング

知的障害者で男女別、年齢区分別に実施する。

8. バスケットボール

知的障害者で、男女別の実施する。

9. 車いすバスケットボール

肢体不自由者の車いす使用者で、競技規則第9部第3条の規定に該当する者。

10. ソフトボール

知的障害者のみの競技とする。

11. グランドソフトボール

視覚障害者のみの競技とする。

12. バレーボール

聴覚障害者と知的障害者で、男女別の実施する。
精神障害者は、男女混合とする。

13. サッカー

知的障害者のみの競技とする。

14. フットソフトボール

知的障害者のみの競技とする。